

1 学校教育目標	
教育目標……………	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを、友に誠を、人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成をめざす。
中・長期目標……………	単位制の特色を生かして、心身の調和のとれた発達と個性の伸長、学力の向上や進路の実現を図る。保護者や地域との連携を深め、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざす。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<p>本校は、教育目標に「自らに誇りを、友に誠を、人生に夢を」掲げ、単位制の利点を生かしながら、生徒が明確な目的意識を持って日々の学業生活に取り組み、将来厳しい社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力の育成を目標にしている。生徒の授業態度は真面目であり、部活動や学校行事にも熱心に取り組み、節度ある行動や態度をとることができている。一方、おとなしくて積極性に欠ける面も見られる。校内の指導体制は、分掌・年次の連携の下で、基本的な生活習慣の確立及び学習習慣の定着を目指し、あいさつ運動や身だしなみ指導、週末課題や自習倶楽部での指導等が全校体制で組織的に行われている。また、キャリア教育年間指導計画に基づき進路指導も適切に行われ、生徒の進路意識が高まるに伴い、卒業後の進路実現にもつながっている。今年度から、進学クラスを設置し、進学指導を推進する。今後とも、全教職員の協働体制により、以下の取組を進めていきたいと考える。</p> <p>①基礎学力の定着を図ると共に、進路目標をしっかり持ち、夢の実現に向けチャレンジし続ける生徒の育成をめざす。                  ②部活動をとらえて、心・技・体のバランスの取れた、心身に健康で自己指導能力を持つ人間を育成するため、全教職員共通認識の下に組織的に指導に当たる。                  ③本校の教育活動や生徒の様子を積極的に地域・保護者に発信すると共に、卒業生、保護者、地域の人々の力を活用し、異校種の学校とも連携した教育活動を展開する。                  ④教職員が自ら絶えず自己研鑽を積むことによって、授業力、更には人間性を高めると共に、その土台となる健康の増進をめざす。</p>	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<p>1 基礎基本の徹底とキャリア教育の充実                  2 部活動の充実                  3 家庭、地域社会、異校種の学校との連携強化                  4 教職員の資質向上と健康増進</p> <p>チャレンジ目標……時間厳守 母校に誇りを ・遅刻ぎりぎり登校しない！ ・生活習慣を正す！ ・校歌をしっかり歌おう！</p> <p>1年次目標 自己理解「自立と自律」                  2年次目標 自らの可能性を切り拓こう ～高い目標に向かって～                  3年次目標 「徳は孤ならず。必ず隣(となり)有り。」</p>	

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務	○読書習慣の定着	・「読書ノート」の活用や「校内読書会」の開催をとらえて読書習慣を促進する。	4:「読書ノート」の提出率及び「読書会」参加者の満足度が80%以上であった。 3:「読書ノート」の提出率及び「読書会」参加者の満足度が60%以上であった。 2:「読書ノート」の提出率及び「読書会」参加者の満足度が40%程度であった。 1:「読書ノート」の提出率及び「読書会」参加者の満足度が20%未満であった。	4	アンケート結果では、「子どもの読書習慣が身に付いている」と肯定的に感じている保護者は、全体の約3割程度である。昨年度より2.2%の微増だが、読書習慣の定着はなかなか難しい課題である。読書機会を増やす方策として、1・2年次生を対象に長期休業中に読書感想文や「読書ノート」の課題を出した。その結果、感想文は地区で県コンクールに出品される10編の中の1編に選ばれた(応募総数2700点)。「読書ノート」の提出率は80%を大きく越えた。少しでも意欲を高めるため、コメントを付記した。年間10冊以上を読み、感想をまとめた者4名を県コンクールへ応募した。一人で150冊以上読んでいる者もいる。「読書会」は7月に校内で図書委員を中心に実施。参加して良かったという感想がほとんどであった。今後とも読書機会を増やす働きかけを継続していきたい。	・子供の活字離れ、時代の変化がある中で読書活動へのよい取組が行われている。読書からイメージングが育成され想像力のある人間になれる。家庭での読書の習慣を身に付けさせ、学生時代に読書をする大切さを学ばせる活動を引き続きお願いしたい。 ・PTA活動は、各種行事への参加などよく行われている。PTA総会への参加率を上げる手立てとして、講演会の内容等を検討されるとよい。メール配信の活用は大変効果的であると思う。	A
	○保護者との連携活動の強化	・保護者のPTA活動や学校行事に対する理解を深めるために、メール配信等を通じてPTA総会や学校行事の情宣活動を積極的に行う。	4:PTA総会・年次集会等の出席率が25%以上であり、各活動に対する理解が十分深まり、保護者と学校との連携も大変充実した。 3:PTA総会・年次集会等の出席率が20%以上であり、各活動に対する理解がかなり深まり、保護者と学校との連携も充実した。 2:PTA総会・年次集会等の出席率が15%以上であり、各活動に対する理解はあまり深まらず、保護者と学校との連携も不十分であった。 1:PTA総会・年次集会等の出席率が15%未満であり、各活動が不調であり、保護者と学校との連携は不十分であった。	3	PTA総会については、保護者宛文書配布時及び総会前日にメール配信を行い、今年度の参加率は29.6%となった。ただし、総会終了後の年次集会参加率は25.1%と減少した。来年度に向けて、年次集会の内容を充実させる等の方策を講じて、出席率を上げていきたい。 また、例年は役員のみが参加している「中国・四国地区高等学校PTA連合会大会」が、今年度は下関市で開催されたこともあって、全保護者に案内文書を配布したところ、役員以外の保護者からも参加の申し出があった。他の行事についても、役員と協力して、より多くの保護者の関心を高めていきたい。		
教務	○学習習慣の定着	・予習・復習・週末課題に積極的に取り組ませると共に、繰り返して学習をすることによって、家庭学習の習慣定着・基礎学力の充実を図る。	4:家庭学習の時間が1日平均2時間以上であった。 3:家庭学習の時間が1日平均1時間30分以上であった。 2:家庭学習の時間が1日平均1時間以上であった。 1:家庭学習の時間が1日平均1時間未満であった。(家庭学習の時間を知るためにアンケートを実施する)	2	2学期末に学習時間アンケートを全員対象で実施。平日の学習時間は個人差がきわめて大きい。進路目標をきちんと持っている生徒は十分な学習時間を確保している傾向がある。しかし、平日には学習時間が0分という生徒も意外に多かった。休日は国語、数学、英語を中心とした週末課題のために学習時間は増えているが、自発的な学習は少ない。将来的なことを考えると自主的に取り組める生徒が増加する対策を考えていかなければならない。	・自発的な学習習慣を身に付けさせるために、朝学の実施など新たな取組を仕掛けていくことも必要である。勉強したその先にあるものや資格取得などの目標を具体的にイメージさせてほしい。学習習慣をルーティン化させ環境を確保してやるのが大切である。 ・アクティブ・ラーニングによる授業の取組は大変よいことなので、推進していくことが必要である。評価の仕方を工夫して生徒の学力のステップアップにつなげてほしい。	B
	○学習指導の充実	・学習指導の充実のために、積極的に教科会議や研修等を行う。 ・授業の始めに「めあて(目標)」を示し、授業の最後に学習内容の「振り返り」や「まとめ」をすると共に、アクティブ・ラーニングを取り入れた主体的・協動的な活動を充実させる。	4:学習指導充実のために研修等に学期に1回以上参加した教員の割合が90%以上であった。 3:学習指導充実のために研修等に学期に1回以上参加した教員の割合が75から90%であった。 2:学習指導充実のために研修等に学期に1回以上参加した教員の割合が50から75%であった。 1:学習指導充実のために研修等に学期に1回以上参加した教員の割合が50%に満たなかった。	3	教科会議や職員研修等で、学習指導の充実を図る取組を増やしている。基礎知識を定着させ、それを使って課題を解決する力をアクティブ・ラーニングの授業で身に付けさせていく指導を意識するようになっている。そのためのコミュニケーション能力の養成や「めあて」の提示と「振り返り」や「まとめ」を行うことで、生徒の理解を深めていく学習指導を少しずつ実践している。		

生徒指導	○基本的生活習慣の確立及び自己肯定感の育成	・身だしなみ指導と朝の登校指導をとおして、生徒の自覚した生活習慣の確立を図る。 ・校歌を歌うことで自信と誇りを持たせ、自己肯定感の育成を図る。	4: 全教職員の協力により、生活習慣の確立及び自己肯定感の育成が十分に図られた。 3: 全教職員の協力により、生活習慣の確立及び自己肯定感の育成が概ね図られた。 2: 生活習慣の確立は図られたが、自己肯定感の育成は十分に図られなかった。 1: 生活習慣の確立及び自己肯定感の育成が、ほとんど図られなかった。	3	基本的生活習慣の確立及び基本的マナーの育成については、毎月1度の身だしなみ指導や毎朝の登校指導、昼休みの校内巡視、定期的な実施している校外巡視や通学列車マナー指導等、全教職員の協力を得て効果的に実施できた。学校行事や全校集会時に校歌を全員で歌い自信と誇りを持たせる取組を行ったが、声が小さく目標達成には不十分であった。 アンケート結果において、「基本的生活習慣や社会のルール、マナーなどが身に付いている。」の内容に対して9割が肯定的意見であった。特に、生徒の意識が高まっている。今後も、生徒の心身の変容をしっかり把握し、教育相談・SC・養護教諭等との連携を図って指導していきたい。	・登下校時や行事の様子などから、生徒の基本的生活習慣は身に付いていると思われる。18歳になると投票権のある大人である。自覚を持たせる指導をすれば、身だしなみもよくなる。 ・卒業生は校歌を自慢している。校歌にアイデンティティを持ってもらいたい。卒業式に大きな声で歌えるようにお願いしたい。 ・生徒会の働き掛けによる文化祭の一般公開は大変よかった。校内に止まらず、地域社会に関わってほしい。生徒を社会で育てるためにも、地域の行事に参加させるために背中を押してやってほしい。	A
	○特別活動への主体的参加の推進	・生徒会執行部のリーダーシップを育成し、生徒の生徒会活動や各クラスの学校行事(明日葉祭・体育大会・クラスマッチ・生徒総会等)への当事者性を促す。	4: 生徒会を中心に各行事ともクラス全員の積極的な参加が見られ、活動が活発であった。 3: 生徒会を中心に各行事とも行われ、多くの生徒は活動に参加した。 2: 行事によっては生徒の活動が不十分であった。 1: 各行事でクラス及び生徒の活動が積極的ではなかった。	4	生徒会執行部を中心に各種委員会活動の活性化を図ってきた。毎月1回、常設委員会を開催し、月間目標を掲げ、全校生徒への呼びかけも行ってきた。今後も生徒の当事者意識・主体性を高めていくために各種委員会活動の充実を図っていききたい。 学校行事への積極的な参加については、アンケート結果でも約9割の良い評価を得ている。生徒の自主的な活動の場面も多く見られ、目標は達成されたと考えている。今年度、文化祭(明日葉祭)の一般公開を生徒会の働き掛けにより実施したことは大きな成果であった。		
進路指導	○進路実現のための学力養成	・希望進路実現に必要な学力養成のため、学習合宿実施・自習室解放・自習倶楽部設置等により計画的・系統的な指導を図る。	4: 様々な取組により、生徒全員の進路実現につながった。 3: 様々な取組により、7割以上の生徒の進路実現につながった。 2: 様々な取組により、5割以上の生徒の進路実現につながった。 1: 様々な取組は進路実現につながらなかった。	3	夏期・冬期学習会では延べ127名の参加があり、アンケート結果でも有意義であったという意見が多かった。 3年次生対象の自習倶楽部では部員は11名であった。国公立大学合格者は、本年度5名中1名(昨年度11名中5名)であった。 土曜日自習室の開放は本年度39回(昨年度同数)行った。参加者は本年度延べ442名(昨年度延べ265名)と増加した。1・2年の参加者も増加したが、定期考査前の学習会での利用がほとんどであった。日頃から受験への早期対策の重要性を示し、参加者が増える方向にもっていききたい。	・進学クラスがよい刺激となって年次全体の進路意識が向上しているように思える。様々な情報を与え、現状に満足させることなく一歩上を目指すように意識を変えていくことが課題である。 ・多岐にわたる生徒に対して、充実したキャリア教育が行われている。公務員希望者への専門学校との連携やサテラインの導入など特色ある取組もみられる。ガイダンスの充実を図り、進路意識の向上に努めてほしい。	A
	○進路意識向上のためのキャリア教育の計画的推進	・「総合的な学習の時間」・「上級学校見学」等を計画的に実施し、進路に対する意識を高める。	4: アンケートで「進路に対する意識が高まった」との回答が概ね8割以上であった。 3: アンケートで「進路に対する意識が高まった」との回答が概ね6割以上であった。 2: アンケートで「進路に対する意識が高まった」との回答が概ね4割以上であった。 1: アンケートで「進路に対する意識が高まった」との回答が概ね4割未満であった。	4	生徒アンケートでは肯定的回答が87.7%、保護者アンケートでは88.9%と高い。職業・学問の研究成果の発表や講話・講演・講義等の継続的・系統的な実施が評価に結びついていると考えられる。しかし、現在の学力で入れる進路を探る傾向があり、学力を高め、よりレベルの高い進路にチャレンジすることが望まれる。今後より一層早い段階で高い目標を設定し、その目標に向かって努力できるようにサポートしていきたい。		
保健環境	○心身の健康の保持増進	・担任・校内コーディネーター・養護教諭・スクールカウンセラー等が連携し、心身のケアが必要な生徒の早期発見・早期対応に努めると共に、全教職員が情報を共有できる体制を充実させる。	4: 心身のケアが必要な生徒への連携した機敏な対応と併に、自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が充実していた。 3: 心身のケアが必要な生徒への対応と自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が行われた。 2: 心身のケアが必要な生徒への対応と相談活動や保健指導がやや不十分であった。 1: 心身のケアも相談活動や保健指導もほとんど行われなかった。	3	全ての生徒が元気に安心して学校生活を送れるように、教職員の情報共有体制の充実を図った。ケアが必要な生徒の早期発見のために、各学期に「不安や悩みについてのアンケート」「いじめに関するアンケート」「教育相談アンケート」「Fit」を実施し、その結果を集計分析し、必要に応じてSCを中心に適宜ケース会議を行った。ケアが必要な生徒への早期対応がスムーズに行うことができた。他の学校生活でサポートが必要な生徒に対しても、各学期に全体会議を実施し、教職員で情報を共有して支援を行った。学校評価アンケートでは、心身の健康のケアについて生徒からの肯定的評価は88.4%(昨年84.6%)であった。	・SNSやいじめの問題などにきめ細かい指導がなされている。生徒自身に話し合いの場を設け考えさせることも大切。課題を抱える生徒への指導は、定期的にケース会議を開催し、担任の苦労を共有し、教職員全体で行ってほしい。	A
	○学習環境の整備	・清掃活動の徹底とゴミの減量化を促進させながら生徒の環境意識の向上を図る。 ・花壇づくりなど校内美化に努め学習環境を整備する。	4: 清掃活動その他の美化活動が計画どおりに実施され、生徒の環境意識も高まった。 3: 清掃活動その他の美化活動がほぼ計画どおりに実施され、生徒の環境意識もやや高まった。 2: 清掃活動等が不十分で生徒の意識を高めるまでに至らなかった。 1: 計画のみにとどまった。	3	保護者アンケートでは、校内の清掃や美化について肯定的評価を94.5%得られ、昨年度より4.9ポイント増加した。外庭においては、担当教員の指導の下、環境委員や掃除当番の生徒が良く活動し、花壇にとっても美しい花を咲かせることができた。校内の清掃活動については、指示されたことはしっかりできるが、自発的に率先できる生徒はまだ少ない。そのため隅々までは掃除が行き届いて無いところもある。環境委員による巡視によって、生徒自らが環境美化活動の必要性に気付くことで、自主性を向上させながら一層校内の美化を図りたい。	・花壇の整備など校内の環境美化は素晴らしく、清掃活動や心身のケアについてのアンケート結果もよい。教員が率先して生徒と一緒に清掃活動を行うことが大切。	
業務改善	学校の組織等	・分掌会議を計画的に開催することで業務改善を推進し、教育活動の充実を図る。	4: 分掌会議を通じて活発・具体的な提言がなされ、教育活動の充実がみられた。 3: 分掌会議を通じて活発・具体的な提言がなされ、教育活動の充実がかなり期待できる。 2: 分掌会議の活動が中途半端に終わり、教育活動の充実があまり期待できない。 1: 分掌会議の活動が十分に行われなかった。	3	各分掌や年次の会議を開催する中で、新たな取組の提案や今までの取組に対する検討・改善が十分に行われている。今年度設置した「進学クラス」の運営、サテラインの活用や公務員課外の専門学校との連携など、特色ある学校づくりの推進を共通理解の下、協働体制で推進している。	・進学クラスや公務員課外など特色ある取組を推進し、マスコミを活用して地域に活動を知らせて欲しい。	B
	○各分掌の組織的な運営						
	○教育活動業務の効率化	・学習指導、生徒指導等に関する諸規定の整備を推進する。	4: 諸規定が大いに整備された。 3: 諸規定がかなり整備された。 2: 諸規定があまり整備されなかった。 1: 諸規定に手をつけられなかった。	4	「校務の手引き」(校内規定集)を新たに作成する中で、各分掌の諸規定の見直しが行われた。手引きの活用により効率的に業務が行われ業務改善が推進されている。	・校内規定集を作成し業務内容を可視化したのはよい取組。働き方改革として、業務改善により年休を取得しやすい環境を整備してもらいたい。教員の心身が健全なことがよい教育活動につながる。	
	○勤務時間の適正管理	・業務内容を見直すことで勤務状況の改善を図り、年休を取得しやすくする。	4: 年休取得日数が一人平均15日以上であった。 3: 年休取得日数が一人平均10日以上であった。 2: 年休取得日数が一人平均7日以上であった。 1: 年休取得日数が一人平均7日未満であった。	2	年休取得日数は一人平均9.7日(昨年度9.5日)で昨年より増加したが、多数の者が多くの年休を残している。業務内容の精選や効率化の推進などの改善に取り組み、休暇の取りやすい環境づくりが必要である。		

6 学校評価総括(取組の成果と課題)							
【成果】	①「読書ノート」や「読書会」などの取組を通じて読書活動の充実が図られ、コンクールでの上位入賞もみられる。明日葉祭の一般公開、中学校や地元自治会の祭りへの参加などを通じて、本校教育活動への保護者・地域の理解が進んだ。 ②幅広い学力を持つ生徒に対して、学力向上の各取組により柔軟に対応している。計画的な研究授業やアクティブ・ラーニングの推進による授業改善で、教員の資質向上も図られている。 ③問題行動は見られず服装に関してもほとんどの生徒が規則を守れている。管理的な生徒指導ではなく、生徒の主体性が感じられる。アンケートやSCの積極的な活用も行われ、悩みを持つ生徒にも適切に対応している。 ④進学クラスの設置や公務員課外など、新たな取組を組織的に行っている。幅広い進路希望に対して、丁寧な指導が推進されている。 ⑤花壇づくりや校内美化などの活動を通じて、学習環境の整備が推進されている。 ⑥校内諸規定の見直しや分掌会議を通じて、新たな特色ある取組の実施や業務改善が推進した。						
	【課題】	①読書習慣を定着させ、読書を通じて創造力を持つ人間を育成してほしい。 ②自発的な学習への取組や学習習慣の定着に仕掛けや工夫が必要。 ③生徒の活動の場を校内に止めず、地域社会に積極的に接してほしい。地域行事への参加に学校が背中を押すことも必要。 ④きめ細かい情報提供や学習環境の整備で意欲を高め、一歩上を目指す進路指導を行ってほしい。 ⑤SNSやいじめの問題について生徒自身が積極的に取り組むことが必要。					

7 次年度への改善策							
①生徒・保護者・地域の意見を取り入れ、カリキュラム・マネージメントを推進する。 ②授業アンケートのフィードバック、研究授業の計画的な実施、アクティブ・ラーニングの推進等、教員の授業力の向上を図る。 ③中高連携や地域でのボランティア活動を生徒会主導で推進し、生徒が活躍する場面を増やす。 ④大学入試改革を踏まえた、進路指導体制の見直しと組織的な取組の推進。 ⑤情報の共有による全校協働体制での、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。SCや外部の機関と連携し、教育相談活動を充実させる。							